

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(豊里中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中	58.2	49.6	54.1	50.2	51.9	62.3	51.3	46.3
埼玉県	62.5	54.6	57.0	52.0	51.5	56.7	60.2	51.5

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中	7-A	7-A	8-A	6-A	7-A	8-A	8-C	9-A
埼玉県	8-C	8-C	8-A	6-A	7-A	8-B	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中		3	2		6	2		3
埼玉県	3	1	2	1	4	2		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		中1		中2		中3	
	質 問 事 項	豊里中	埼玉県	豊里中	埼玉県	豊里中	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	80.0	83.2	79.5	72.6	79.2	70.3
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	75.0	72.5	70.4	68.9	60.4	67.0
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	95.0	88.1	81.9	88.1	93.7	87.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	97.5	89.6	90.9	91.6	91.6	93.1
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	92.5	89.5	90.9	90.9	95.9	90.8
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	50.0	49.1	54.5	47.8	50.0	47.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	65.0	63.0	72.8	61.6	75.1	69.1
学習等への関心	・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じた	72.5	74.2	75.0	57.0	72.9	63.3
	・将来どの学校まで進みたいと思いますか【大学以上】	57.5	46.2	56.9	50.8	52.1	58.5
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	75.0	57.5	75.0	47.4	54.2	41.3
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	67.5	68.3	63.6	61.2	66.7	64.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	82.5	84.6	77.3	79.5	91.7	84.0
	・国語や数学、英語の授業で、週1～2回程度以上タブレットを使っていた(3項目の平均)	66.3	60.5	61.3	37.5	48.6	42.2
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	45.0	26.0	11.4	13.5	16.6	13.8
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	97.5	95.6	100	96.3	100	95.8
	・学校の友達らは自分のよいところを認めてくれた	92.5	93.7	90.9	94.3	87.5	94.6
	・学級での生活は楽しい	85.0	93.1	93.1	94.0	93.7	92.8

【質問紙分析】

- ・「相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている」「休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)」の質問項目に対し、肯定的に回答した生徒の割合がとても高かった。このことから、深谷の子6つの誓いに関わる意識が高まっていることが見て取れる。
- ・「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった」の質問項目に対し、肯定的に回答した生徒の割合が高かった。一方で、「国語や数学、英語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」の質問項目への肯定的な回答が少なかったことから、生徒同士で対話を行う学習場面において、タブレットをより積極的に活用していく。
- ・その他の質問項目で、肯定的な回答をした生徒の割合が高かったことから、多くの生徒が学校生活を前向きに捉え、良好な人間関係を築いていることが見て取れる。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・毎朝、学習や読書に集中して取り組む時間を設けることで、基本的な生活習慣や望ましい学習習慣を身に付けさせている。
- ・教職員が積極的に生徒とのコミュニケーションを取ることで、生徒の不安や悩みを相談しやすい雰囲気を作り出している。
- ・課題を抱えた生徒に対し、複数の教職員が積極的に関わることにより、学校全体がチームとして子どもたちを育てていく体制を整えている。

【国語】

- ・2年生、3年生では伸びが見られた。3年生・2年生ともに、個に応じた支援ができたことにより成果が現れたと考える。
- ・毎時間の、漢字の取り組みを行ったことや生徒間の話し合いの活動を多く取り入れることで、基礎知識の向上につながったと考えられる。

【数学】

- ・3学年の伸びは、全県と同じ2であった。授業では、既習と関連付ける活動や、条件を変えて発展させる活動を行っている。また、全国学力・学習状況調査の問題も積極的に取り扱ったことで、どのように答えればよいのかが理解できた生徒が増えたことが、記述式問題の正答率の高さにつながったように思われる。
- ・2学年の伸びは、6であった。習熟度別の授業で個に応じた丁寧な指導を心掛けたとともに、問題演習を多めに行った。習熟度が高い生徒には、発展的な問題を設定し、力を伸ばせるように指導した。

【英語】

- ・3学年の伸びは、全県と同じ3であった。県の他の生徒たちと比べると、低い位置からの伸びなのかもしれないが、2年生から3年生になる時に改めて英語を勉強する必要性を強く感じ頑張ったのであろうと推測される。
- ・2学年は全県に比べて1ランク低い。これから聞き取りや読解について、教科書の内容にこだわらず、多くの英語に触れさせることによって、英語力を高めていきたいと考える。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・国語では、文章の比較を通して内容を吟味し、表現の違いや描かれ方の理由を考える活動の回数を重ねることで、題材をより深めていけると考える。また、文法なども継続して定期テストに出題し、授業でも復習を行うなどして基礎知識の定着を図る。さらに、書くことについては文章の例を提示してスムーズに活動に取り組めるようにしている。
- ・数学では、関数領域における正答率が低いため、授業では、「なぜ？」の疑問を大切にしながら、式、表、グラフを相互に関連付けて、知識及び技能を身につけさせていく。その際、I C Tも積極的に取り入れて、生徒に気付きをもたせるように指導していく。そして、生徒の習熟度に応じた問題や課題を設定し、個別最適な学びを実現するとともに、自分の考えを相手に説明する時間を積極的に設けることで、思考力、判断力、表現力等を伸ばしていく。
- ・英語では、これから改めて基礎基本を大切にした授業展開を進めていかねばならないと考えている。基礎基本の定着によって、全体の底上げを行っていきたい。また英語は、「繰り返し学習」がとても大切である。家庭でも英語の勉強をしたくなるような、またはしなければならないような英語学習サイクルを、生徒の生活の中に構築させ、このサイクルを通して、基礎基本の定着を目指していきたい。例えば、単語テストや単元テストの設定など上手に実施していきたいと考える。